

# 特別支援学校小学部における生活科授業実践

— ふくをたたもう ふくをかたづけよう —

小田 貴史<sup>\*</sup>・赤崎 真琴<sup>\*</sup>・北川 裕絵<sup>\*\*</sup>・竹中 伸夫<sup>\*\*\*</sup>・八幡 彩子<sup>\*\*\*</sup>

## The practice of Life Environment Studies Division for Elementary School Section of Special Education School

— Let's Fold Clothes Let's Put Clothes Away —

Takafumi ODA, Makoto AKASAKI, Hiroe KITAGAWA, Nobuo TAKENAKA and Ayako YAHATA

### 1. はじめに

#### 1) 学習指導要領改訂について

平成29年4月に公示された新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を実現し、子どもたち一人一人の豊かな学びによる未来を拓く「生きる力」の育成が謳われている。

一人一人の豊かな学びとは、「何を知っているか」に留まらず、求められる資質・能力を育成し「何ができるようになるか」という学びであり、その実現のために、学びの過程に「主体的・対話的で深い学び」を組み込んでいくことが求められている。また、知的障害児を教育する特別支援学校（以下、知的障害特別支援学校）においては、各教科の指導の充実が求められ、学習指導要領が改訂された。

知的障害特別支援学校小学部の生活科も、資質・能力の観点から教育内容を示されるなど、改訂の要点として以下があげられた。

- ① 児童が生活に必要な基本的な知識や技能及び態度を、生活経験を積み重ねて着実に身に付けていくことが基本にあり、更に自らの生活を豊かにしていくとする資質・能力とすることを明確にした。
- ② 教科の内容に関しては、小学部体育科との内容、中学部社会科及び理科との内容のつながりを踏まえて整理した。
- ③ 指導計画については、各教科等との関連を図り、指導の効果を高めるとともに、中学部の社会科、理科及び職業・家庭科の学習を見据え、系統的・発展的に指導できること。  
内容の取り扱いについては、日々の日課に即して、実際的な指導ができることや具体的な活動や体験を通して多様な学習活動を行うことなどについて示している。

#### 生活科改訂のポイント<sup>1)</sup>

\* 熊本大学教育学部附属特別支援学校

\*\* 熊本市立飽田東小学校

\*\*\* 熊本大学大学院教育学研究科

そこで、新学習指導要領への移行を見据え、生活科において主体的・対話的で深い学びを実現し、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育んでいく授業の在り方を探究していくこととした。

#### 2) 本校小学部の生活科について

本校小学部の生活科の学習は、通年型と期間集中型による教科別の指導と、各教科等を合わせた指導で行っている。通年型では、基本的な生活習慣に関連することなど日常的で活用場面が多く、学習したことを即時的に活かしやすい内容を取扱っている。また、期間集中型では、公共交通機関や公共施設の利用、買い物や調理など日常的に活用場面が少ない事柄について、活用場面も含めた単元構成により学習を行っている。

### 2. 実践の方法

#### 1) 概要

本稿では、小学部生活科単元「ふくをたたもう ふくをかたづけよう」の授業実践をとおして、単元構成や授業展開、また教材教具や教師の発問など、主体的・対話的で深い学びの実現に必要な具体的な工夫点や要点について明らかにしていく。

#### 2) 単元設定の理由

児童が自立した生活をする上で、基本的な生活習慣に関する知識及び技能や態度などを確実に身につけ習慣化していくことは重要である。中でも衣服の片付けなどの身の回りの整理を行うことは、自分自身の持ち物の管理や生活を便利にするものであるだけでなく、家庭生活においても重要な営みの一つである。このことから、こうした技能や態度を育むことは家庭生活における手伝いに広がり、将来の役割を担った働く生活へつながると考える。

そこで本単元では、衣服の畳み方やそれらを仕分

けて片付けることの学習をとおして、畳む技能に加え、整理整頓する良さに気づき、自分から丁寧に衣服を畳んで片付けたり、家庭生活において意欲的に手伝いに取り組んだりする習慣や態度の育成につなげていくことをねらいとするものである。

また、本単元での活動がよりよい生活に向けて、思考や表現を繰り返したり、できることが増えたりと自立し生活を豊かにするための資質能力の育成につながると考えた。

### 3) 児童の実態

本学級は3年生3人、4年生3人の計6人（男子5人、女子1人）の学級である。日々の学校生活の積み重ねから、ほとんどの児童が着替え後に脱いだ衣服を畳む一連の流れや、衣服やタオルなど身近な物を大まかに畳む技能はある。しかし、技能はあるにもかかわらず衣服を畳まずにカゴやカバン等に片付けてしまうこともある。このことから、整理整頓する良さへの気付きは弱いと思われる。また、家庭では衣服を畳んだり片付けたりなど衣服に関する手伝いをする機会はあまりない。

ほとんどの児童は、動画や目の前での実践へ興味を持って注目することができる。提示された問いかけに対して、自分の考えを言葉で説明することができる児童は少ないが、正しい方や好きな方を選択して自分の考えを伝えたり、行動で表現したり、友だちや教師の様子を見て真似たりすることができる。

### 4) 目標及び計画

以上の単元設定の理由や児童の実態から、次のような単元の目標を設定した。

- a) 衣服の畳み方や仕分け方が分かる  
【知識・技能】
- b) 衣服を畳んだり、仕分けたりする良さに気づく  
【思考・判断・表現】
- c) 衣服を畳んだり、仕分けたりすることに自ら取り組もうとする【主体的に学習に向かう態度】

また、上記の単元の目標をふまえ、以下の様な単元計画を構成した。

時	題材	学習活動
1	こんなときどうする ～ふくをたたもう①～	長袖、長ズボンのたたみ方
2	こんなときどうする ～ふくをたたもう②～	靴下のたたみ方 引き出しに入れる
3 本時	こんなときどうする ～ふくをかたづけよう～	服を仕分ける

単元計画

- また、全体授業研究会を行った第3時の目標は
- a) 衣服を仕分けて片付ける方法が分かる。
  - b) 衣服を仕分けて片付ける良さに気づくことができる。
  - c) 自分から衣服を仕分けて片付けようとすることができる。
- とした。

### 5) 授業における工夫点

#### (1) 授業のストーリー

「主体的で対話的で深い学び」の実現のための授業展開（授業のストーリー）を以下のように工夫した。

- ①前の時間でできるようになったことや普段の子どもたちの取り組みの様子を確認するための『前時の振り返り』
- ②前時までの授業や今までの生活経験から学んだり獲得したりした知識や技能を活用できる『課題の提示』
- ③実際に操作をしたり、選択をしたりしながら自らの考えを探求する『考えてみよう』
- ④「できた!」「なるほど」を実感するための『考えの検証』

上記の①～④までの項目を盛り込んだ授業展開を以下に示す。

時	学習活動及び内容	指導上の留意点
1 5 5	1) 「はじまりのあいさつ」をする。 2) 前回のふりかえりをする。 3) 課題の動画を見る。 取り込んだ洗濯物を畳んで、衣服片付けようとする。引き出しが仕分けされていることを無視して片付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がT1に注目できるよう、姿勢を正すような声かけをする。</li> <li>・前時に学習した内容を本時の課題に活用しやすいよう、前回の学習で用いたスライド等を提示する。</li> <li>・課題に注目して理解しやすいよう、動画を用いて提示する。(1～2回)</li> <li>・注目や話しの理解が難しそうな児童がいた場合には、注目すべき場所を指さしたり、隣で言葉を加えたりする。</li> </ul>
8	4) 課題を見て、どの様に感じたか「にっこり」か「がっかり」でする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について考えやすいよう、課題と同じ状態の引き出しを提示する。</li> <li>・自分の考えを表明しやすいよう、「にっこり」か「がっかり」の二択を提示する。</li> <li>・自身や友だちが出した解答がわかりやすいよう、ホワイトボードに板書する。</li> <li>・「にっこり」や「がっかり」の理由を述べるることができる児童には、なぜそれを選んだのかを尋ねる。</li> </ul>

5	5) 正解の動画を見る。 ①適当に片付けたことで、着ようと思っていた衣服が見当たらず困る。 ②そこに正解を教えてくれる「せいかつくん」が登場する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正解を理解しやすいよう、動画を用いて提示する。</li> <li>・注目や話の理解が難しそうな児童がいた場合には、注目すべき場所を指さしたり、隣で言葉を加えたりする。</li> <li>・正しい動作が伝わりやすいよう、動作をキーワード化する。</li> <li>・動画の内容の理解がしやすいよう、一場面毎に動画を止めて内容の補足説明をしたり、2回程動画を流したりする。</li> <li>・「たたむ」や「たたんで わける」カードを提示し、選択できるようにする。</li> <li>・「にっこり」か「がっかり」の二択を提示する。</li> </ul>
10	6) 衣服をたたむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長袖、長ズボン、靴下、タオルの入り混じった衣服等を一人ずつに渡す。</li> </ul>
5	7) 畳んだ衣服を引き出しに仕分ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子に応じて前時までに学習した畳み方が分かるよう、テレビに畳み方の動画を流す。</li> <li>・入れる場所が分かりやすいよう、引き出しに、衣服の種類やイラストを掲示しておく。</li> <li>・一人ずつ、仕分けて入れる。その際、児童が実践する順番は「自分の考えを表明できる児童」→「友だちのまねをする児童」になるようにする。</li> </ul>
5	8) 本時のまとめをする ・「たたんで わける」のキーワードを復唱する。 ・「お手伝いカード」を持ち帰り、家庭で取り組むことを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと仕分けることができたかを児童たちと一緒に確認を行う。</li> <li>・本時のポイントが分かりやすいよう、「キーワード」で伝える。</li> <li>・家でも取り組めるよう、お手伝いカードを用意する。</li> </ul>
1	9) 終わりのあいさつをする	

第3時の授業展開

(2) 思い・考えの表出

自分自身の思いや考えを表出しやすいよう、「○」「×」といった、正解不正解ではなく、「にっこり」or「がっかり」などの感情の言葉を選択肢に設けた。

また、言葉で伝えることができる児童には、選択した理由などを発表する機会を設け、その言葉を文字に起こすようにした。



選択肢のカード

(3) 発表の順番

友だちの考えを模倣したり参考にしたりしやすいよう、発表の順番はモデルとなる児童から行うようにした。

(4) キーワード

授業のポイントや衣服の畳み方などがわかりやすいよう、手順などをキーワードとして伝えた。

(5) 課題提示の工夫

児童が課題に興味を持ちかつ課題となる点に気づきやすいよう、教師出演の動画を用いた。動画には、出演する教師の困惑している様子や誤った行動をする様子を見せることで、思考のきっかけになるようにする。

また、出演する教師に対してヒントを出す役割としてキャラクター（せいかつくん）を用いる。



せいかつくん

6) 評価の方法

(1) 学習の評価について

児童一人一人に本時の目標に即して、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に向かう態度】の3つの観点から目標を設定し、行動観察を評価の方法として実施した。

(2) 授業における評価について

①グループ授業研究会（S授業研）

【指導計画】対象授業を実施前に、授業の展開や教材・教具の使い方、また教師の発問について確認し、工夫点や要点の検討材料とする。

【指導評価】授業後には、学習評価や行動評価を基に指導目標の妥当性や授業の展開、また教材・教具の適性や教師の発問など指導について評価し、工夫点や要点の検討材料とする。

②学部授業研究会

生活科の単元計画や本時の展開、また教材・教具について検討し、授業づくりの要点や工夫点を確認する。また、学習評価等を受け、その工夫点の効果を検討する。

③全体授業研究会

第3時を対象授業とし、他学部の教師による授業参観を実施。授業研究会の際には学部縦割りのグループ毎にS評価シートを用いた評価や検討を実施する。

④大学教員との共同研究

熊本大学大学院教育学研究科の八幡彩子及び竹中伸夫との共同研究により、生活科など各教科の特質や見方・考え方など専門的な視点から検討を行い、授業づくりの要点や工夫点を整理していく。

3. 結果

1) 授業における工夫点に関して

(1) 授業のストーリー

①前時の振り返り

前時の授業中の様子のVTRを見ながら、「そ

で、そで、すそ、はんぶん」とキーワードを唱えながら手を動かす児童の様子が見られた。前時の自身の様子を見ることで、習得したことを確認し、「今日はどんなことするのだろうか」と期待感や意欲の高まりを感じることができた。

②課題の提示

本時の目標となる課題を教師出演の動画を用いて提示した。教師出演の課題を提示することで、児童の興味を強く引き、動画へ集中させることができた。集中することで、「あれっ!？」と動画の中で教師の困っている様子(課題)に気づく様子が見られた。

③考えてみよう

自分の考えを実際に操作をしたり、選択肢から選ぶようにしたりと考える様子が見られた。本授業では、授業のキャラクター(せいかつくん)が考えを手助けするためのヒントをくれることで、それを参考に自分の考えを伝える様子が見られた。

(2) 思い・考えの表出

単に「○」か「×」を選択して解答をしていた際には、「なぜそう思ったのか」と尋ねても、どのように答えて良いかわからず、回答をすることが難しい様子が見られていた。そこで、「にっこり」「がっかり」など気持ちの面に関する言葉を用いたことで、自分の感じた思いに気づき、言葉として表現することができた。気持ちを表す言葉として表現できたことで、「きれいだから」や「ぐちゃぐちゃだから」など選択した言葉の理由も述べることができた児童が見られた。気持ちの面へのアプローチが思いを言葉で表現することへつながったと考える。

(3) 発表の順番

言葉のみで自分の考えを伝えることは難しいが、自分の考えを行動で表現できる児童を先に発表するようにした。自分の考えを友だちなどの模倣をすることで表現することができる児童はその姿をモデルとして、発表する様子が見られた。

(4) キーワード

服の畳み方の動作を「そで そで すそ はんぶん」といったキーワードとして端的な言葉に置き換えたことで、そのキーワードを唱えながら服を畳むなどの動作を行うことができた。

(5) 課題提示の工夫

キャラクター(せいかつくん)が考えのヒントをくれたことで、そのヒントや言葉が児童自身が思考

していくうえでの参考となった。

2) 評価について

(1) 学習の評価について

それぞれの目標に対して、「◎:達成できた」「○:概ね達成できた」「△:達成できなかった」の3段階で評価した。結果は以下の通りである。

氏名等	本時の目標	評価	特記事項
A児 3年	・イラストを見て仕分けて片付けることができる。	◎	
	・仕分けて片付けた方が良い理由を発表することができる。	○	
	・自分から仕分けて片付けることに取り組もうとすることができる。	◎	
B児 3年	・「たたんで わける」カードを選ぶことができる。	◎	
	・「がっかりカード」、「にっこりカード」の中から教師の問いに応じて正解を選択することができる。	◎	
	・教師と一緒に衣服を分けて片付けることができる。	◎	
C児 3年	・「たたんで わける」カードを選ぶことができる。	△	授業の時間が気になり、集中しきれいでなかった。
	・「がっかりカード」、「にっこりカード」の中から教師の問いに応じて正解を選択することができる。	○	
	・仕分けて片付けることができる。	◎	
D児 4年	・イラストを見て仕分けて片付けることができる。	◎	
	・「にっこり」「がっかり」で表現することができる。	◎	
	・自分から仕分けて片付けることに取り組もうとすることができる。	◎	
E児 4年	・「たたんで わける」と答えることができる。	◎	
	・「がっかりカード」、「にっこりカード」の中から教師の問いに応じて正解を選択することができる。	○	
	・教師と一緒に衣服を分けて片付けることができる。	○	
F児 4年	・イラストを見て仕分けて片付けることができる。	◎	
	・仕分けて片付けた方が良い理由を発表することができる。	○	
	・自分から仕分けて片付けることに取り組もうとすることができる。	◎	

※基準◎:よかった ○:概ねよかった △:改善が必要 -:なし

第3時の学習の評価

授業時間が超過したことで集中力を切らしてしまった児童がいたが、設定した目標を概ね達成することができた。



(2) 授業における評価について

本時（第3時）におけるSシートを用いた授業評価は以下の通りである。

領域	評価内容		チェック	特記	
授業の内容構成	児童生徒の実態を踏まえた本時のねらい・目標設定		○		
	学習内容	興味関心(意欲・動機付け等)	◎		
		課題意識(葛藤・危機・必然・責任感等)	◎		
		振り返り(成就感・期待感等)	○	時間が短かった	
		思考・比較・判断等	◎		
		表現・意思伝達等	○	難しい児童の表現方法	
		他学習・場面等との関連	◎		
	難易度	○	実態差		
	授業構成	学習量・活動量・時間配分	△	時間が超過した 説明多	
		発展性・まとめ	◎		
環境設定・教材教具	環境・学習	空間・配置・雰囲気等	△	活動場所(机)せまい	
	提示・教材	教材内容	興味関心・難易度・自由度	◎	
		教材内容	対象・操作性・量	○	量が多い児童も
	提示方法	板書・ICT活用等	◎		
	学習集団の規模や編成	◎			
教師の姿勢	子どもへの配慮	健康面・安全面・雰囲気・言葉遣い・気付き等	◎		
	指示・説明等の内容・方法	口頭・教材・モデル等	○	難しいと感じる場面あり	
	指導のバランス・タイミング・内容	全体理解・個別対応等	○		
	気付きや思考・イメージ化を促す働きかけ		○	難しい児童もいたのでは	
	教師間の連携		◎		
	子どもの理解・努力・態度・成果等の評価(賞賛等)		◎		

※基準[◎:よかった ○:概ねよかった △:改善が必要 -:なし]

第3時の授業評価

4. 大学教員からのコメント

①八幡彩子からのコメント

「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」という生活科の目標を達成するための授業づくりには、児童の状況・発達段階・興味関心等にふさわしいものであったか、学習題材の適時性・系統性・妥当性、学習過程の工夫等の観点から検討する必要がある。本実践の優れた点として、単元構成の工夫などを指摘できる。一方、課題として以下の2点を指摘したい。

ア) 対話的な学びのさらなる充実を

問題解決の方法は多様であってよい。児童の発達段階に応じた気づきを対話を通して引き出し、実践につなげていくことも「主体的・対話的で深い学び」がもたらす効果と考える。

また、家庭生活の実態はさまざまである。「主体的・対話的で深い学び」により、児童のさまざまな生活実態(状況)に応じて工夫(思考・判断)して問題解決できる人に成長してほしい。

イ) 本実践により児童はどう成長していくのか

本単元「ふくをたたもう、ふくをかたづけよう」は児童にとって身近な題材である。本実践では、授業者の工夫によりたくさんの気づきを生み出す単元として構成されたと考えるが、本実践により、児童がどのように変容・成長したのか、データや児童の評価等を通して検証できるとよい。本実践を核として、小学校低学年から高学年に至る児童の成長とともに、生活科における学習がどのように系統立てられ、関連づけられていくのか、今後の研究に期待したい。また、学習の場が学校から家庭実践へと拡張する中で、生活事象は複雑化、多様化する。そうした展望・見通しをもって、児童に身につけさせたいこと、汎用的スキルはどのようなものなのかについても考えていく必要がある。

②竹中伸夫からのコメント

ア) カリキュラム化に向けて

「できるようになってほしい(させたい)」と「できるようになりたい(したい)」をどのように両立させ授業や単元、長期的な計画を構成するか。

イ) 授業作りの留意点

(ア) 目標と内容と方法の一貫性

目標に応じた内容と方法を用いないと、目標の実現(成果)は得にくい。教師の意図をきちんと実現できる導入や展開(内容と方法)を組織。

(イ) 教師と子どもとの違いの理解

教師と子どもとの違いは別の経験を有する別の人間。教師の設定した目標・内容・方法が子どもの実態に合っているとは限らない。その人の当たり前と別の人の当たり前は必ず違う。

(ウ) 放任と押しつけの間を狙う

基本的に子どもの主体性を意識した学習。ただし、目標を設定し、その範囲にくるように誘導。

5. 考察

～生活科の授業を通して見えてきたこと～

1) わくわく学べる授業のストーリー

～心の動きのある授業～

学習指導要領等改訂の基本的な方向性で述べられている「習得・活用・探究」という学びの過程に加え、習得に至る段階で、如何に思考を働かせて習得するかを重視した「思考・探求・習得」の学びの過程が必要であると考えた。(H28.中学部)

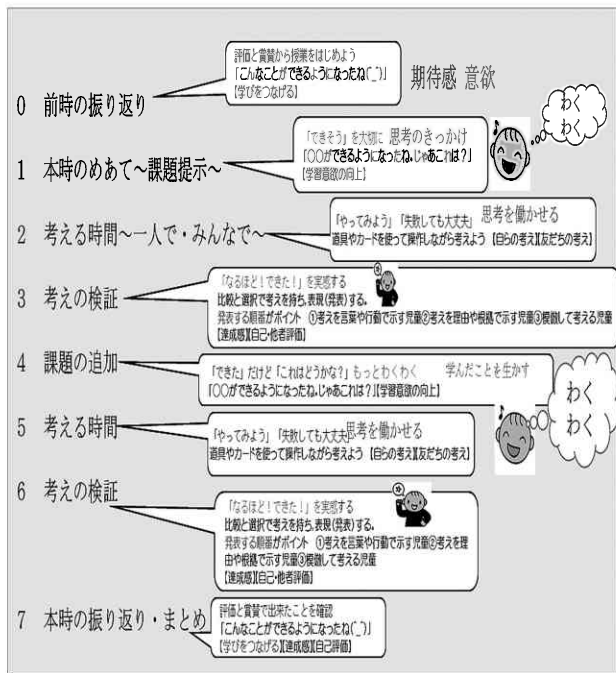
この学びの過程を重視した授業展開のモデルを事例研究をとおして検討していった。ここでは「0番」として、前時の振り返りを重視した。できることなど習得したことを確認し、それを基に授業を進めていくようにし、知識技能の活用を促進するようにした。



思考・探求・習得・活用・探究

また、課題の提示や一人で考える時間の確保（思考・探求）、そして全体で考え検証していく。さらに、その授業展開を何度か繰り返し、思考と探求の過程による習得を目指した。

そうした授業実践を行う中で、以下のような授業展開の仕方が見えてきた。



わくわく学べる授業のストーリー

①前時の振り返り

できるようになったことなどを確認することで、前の時間の学習との「学びのつながり」が生まれ、児童の授業への期待感や意欲の高まりを生み出す。

②本時のめあて～課題提示～

できるようになったことを活用し、児童が「できそう」「やってみよう」と感じることができるよう課題の提示を行う。思考のきっかけとなるような提示。

③考える時間～一人で、みんなで～

実際に道具やカードなどを操作しながら思考を働かせる。

④考えの検証

友だちの考えと比較や選択をしながら、考えを持ち表現（発表）する。自分自身の「できた」を実感したり、「なるほど」と新たな知識を得たりする。

⑤課題の追加

学んだことを生かすさらなる課題の提示。もっと「わくわく」。

⑥考える時間 ⑦考えの時間

②④に同じ。

⑧本時の振り返り・まとめ

評価と賞賛でできるようになったことを確認する。次に授業へ、また家庭等へ学びをつなげる。

2) 思考・探求～それぞれの思いや考えの表出～



「思考・探求」のモデル図

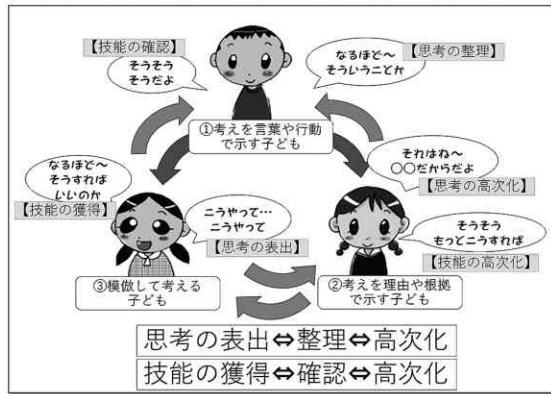
平成28年度に本校中学部で検討された「思考」「探求」について、小学部でも検討していった。児童は、「発見」や「選択」「比較」「予測」「試行」といった思考をする以前に、事柄を「経験」することや人の「模倣」をすることを経ることから、「経験」や「模倣」の行動を「非言語的思考」として思考の一部と考える。

また、「試行」したことが「成功」や「失敗」という行動の結果を経て、獲得した知識や技能を「生かす」ことや「工夫」といった行動が新たな「経験」につながると考えた。共同研究者との検討会の中で、子どもたちの非言語（行動）による思考を重視した学習活動を展開していくことで、思考しやすくなるのではないかと提案がなされた。

3) 対話的な学び～非言語の学び合い～

平成28年度に本校中学部での研究成果として提案されていた「学び合いのメソッド」について、小学部でも同様の対話的な学びの様子が見られた。小学部では、共同研究者との検討会の中で、「非言語」というキーワードが浮かび上がった。

それぞれの受容と表出の状況に合わせて、相互に気付き学び合える関係性がある。模倣して考える児童や、行動で考えを示す児童、そして行動の理由や



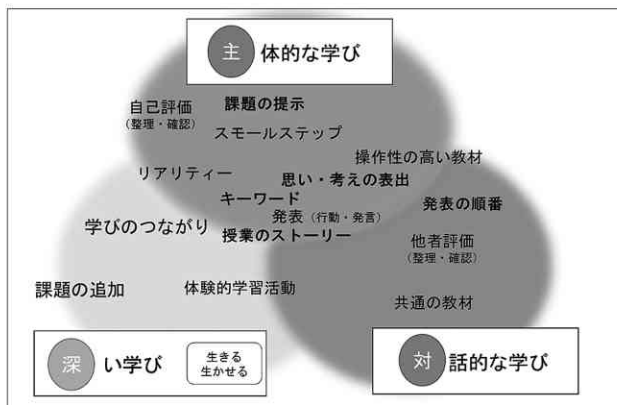
非言語の学び合い

根拠を言語で示す児童があり、それぞれで思考を表出したり整理したりし、さらに高次化していく。また、それに併せて技能も高次化させていくような学び合いが生まれると考える。その関係を以下に図示する。

本実践の学習グループには、「②考えを理由や根拠で示す子ども」に該当する児童がいなかった。そこで、対話的な学びを促すためのツールとなったのが、児童にヒントを与えるために動画に登場した授業のキャラクター「せいかつくん」である。「せいかつくん」がヒントを出したり、理由等を示すことで「①考えを言葉や行動で示す子ども」にとつての思考の整理につながった。

#### 4) 授業のアイテム～3つの学びのために～

授業づくりを行う上でのさまざまな工夫点（授業のアイテム）を「主体的・対話的で深い学び」（3つの学び）との関連で整理すると、おおよそ下図のように整理できる。



授業のアイテム

#### 5) 課題

本時における学習評価と指導評価から課題も見えてきた。

学習評価において「思考・判断・表現」に関する目標の評価が「○：概ね達成できた」の評価にとど

まる児童が多かった。これに関する指導評価に関しては「表現・意思伝達」「指導説明等の内容・方法」「気付きや思考、イメージ化を促す働きかけ」の項目で「○：できた」とあるが備考の欄に「難しい児童の表現方法」「難しいと感じた」と記されていた。共同研究者からも「対話的な学びのさらなる充実を」との指摘もある。それぞれの児童の発達段階における表現や対話を促進するためのツールを検討していく必要がある。

また指導評価において「児童生徒の実態を踏まえた本時のねらい・目標設定」「難易度」「教材内容（対象・操作性・量）」の評価が「○：できた」であり、備考欄には「実態差」と記されていた。共同研究者からも「目標と内容と方法の一貫性」や、「できるようにしたいこと」と「できるようになってほしいこと」を両立させた単元構成が大切との指摘もある。単元としてのねらいをふまえつつ、理解度の実態差を捉えて、個に応じた目標とそれに応じた学習内容や活動量を工夫する必要がある。

他にも「授業構成（活動量・時間配分）」や「学習環境（空間・配置・雰囲気）」において「△：難しかった」の評価がみられた。児童の活動しやすい場の工夫や時間配分を配慮していきたい。

#### 6) まとめ

小学部生活科の事例研究をとおして、新学習指導要領を見据えて授業開発と改善に取り組み、いくつかの授業づくりの工夫点や、思考や対話を促す授業づくりの要点や課題が明らかになってきた。

今後は、これまで述べてきた授業づくりの要点や工夫点、そして課題解決に向けて、学習評価と指導評価を重ね検証していく。

授業のアイテム	～3つの学びのために～
対話的な学び	～非言語の学びあい～
授業のストーリー	～「わくわく・わかって・うれしさ」のある授業～
思考・探求	～それぞれの 思い考えの 表出～

授業づくりの要点

そして、この生活科での学びが家庭生活や学校生活などの日常生活の他の場面に生かしたり、反対に家庭生活や学校生活での課題を生活科の授業内容に反映させたりなど、“学びのつながり”を考慮した授業や単元の構成にしていきたい。

#### 参考文献

1) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』開隆堂（平成30年3月）